

平成30年度 第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ 『 実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part4 』

司会：守山委員(訪看 のぞみ)・田中委員(特養 アイリス)

- 日 時：平成30年7月20日(金) 19:30~21:15
- 場 所：員弁コミュニティプラザ
- 参加者：132名



“Part4”となる今年度第1回目は、「昨年度、医療系専門職から報告のあった末期がん患者への支援が、サービス付き高齢者向け住宅を拠点に、デイサービス・訪問看護により実践されていること」また、「本人や家族が専門職の支援を希望する場合、家族の協力が得られにくい場合の高齢者支援について、介護系専門職が看護師と連携して、自宅復帰を目指すことができること」について“いなべ地域の実践事例”をご報告いただき、皆さまとともに医療と介護の連携による在宅療養支援のあり方について考える機会としました。

1. 実践事例『自宅以外の在宅支援』

“サービス付き高齢者向け住宅”における多職種支援～

事例1：末期がん患者へのデイサービス・訪問看護を中心した取組実践

事例2：老衰の高齢者への自宅復帰を目指した取組実践

* 報告者 * NPO法人 宅老所 紫苑

ケアマネジャー：笹岡余史子さん、看護師：加藤佐代子さん

デイサービス：伊藤清詠さん・伊藤エミさん、サ高住・訪問介護：伊藤春美さん

2. 意見交換会

「医療と介護に関わる者が連携して、『本人の選択、本人・家族の心構え』に寄り添うためにできること」



実践報告の感想

- ☆ 私たちに今何ができるか？ということ、多職種で考えて利用者やご家族の想いに応えていけたことがとても素晴らしかった。
- ☆ 連携がしっかりできていることは、本人・家族の安心はもちろんだが、関わる支援者も安心につながると感じた。
- ☆ 本人様・ご家族様の気持ちに寄り添うために、どうすればよいか考えることができた。多職種との連携の大切さを改めて知ることができた。
- ☆ ご本人・ご家族のニーズ、その人自身を尊重した関わりが勉強になった。

意見交換会の内容

- ☆ 何度も本人や家族さんに話を聞く。家族の事情を理解したうえで、本人の気持ちを一番に大切に。本人・家族の思いを明確化。
- ☆ ケアマネを中心として情報をまとめ、電話・FAX・ノート、実際に顔を合わせるなどの関係づくり。情報漏れをなくす。共通のツール。
- ☆ 他事業所・他職種を受け入れる心構えは、関係を良くするために言い方に気をつける(上からものを言わない)。専門用語は使わない。
- ☆ 連携するために、自分自身が垣根を取らないとダメ。
まずは“相手を信じること”“相手に任せること”が連携の第一歩。
- ☆ 同じ事業所内でも連携・情報共有は難しい。方向性を一緒にしないと希望に沿えない。手間はかかるが話し合いが大切。
- ☆ 多職種との関わりが上手くでき始め、連携しやすくなっている。

平成30年度 第2回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ 『 実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part5 』

- 日 時 : 平成30年9月21日(金)19:30~21:15
- 場 所 : 員弁コミュニティプラザ
- 参加者 : 138名
- 司 会 : 渡部委員(とまと歯科) 太田委員(パークレジデンス)



“Part 5”の今年度第2回は、看護と介護の一体的支援を行う『看護小規模多機能型居宅介護』での“いなべ地域の実践事例”を通して、支援内容や暮らしぶりを知り、「いなべ地域の多職種連携で何ができるか、どのように支えることができるか」について、参加者の皆さまとともに考える機会としました。

1. 実践事例『自宅以外の在宅支援』

“看護小規模多機能型居宅介護”における看護・介護の一体的支援～
～医療依存度の高い在宅療養者への取組実践～

* 報告者 * ナーシングホームもも鳥取

看護師：前葉かおりさん

ケアマネジャー・介護福祉士：須藤泰世さん



2. 意見交換会

多職種による『連携・協働には何が必要か』『連携する際の課題は何か』

意見交換会の内容

- ・ 関わるスタッフがその利用者の状態を共有し、利用者の目標を常に意識し、事業所を超えてチームで動いていると認識する。
- ・ 1人ひとりに合った支援やケアができれば、看多機のレベルのケアができるが、連携・協働したとしても、どうしても時間がかかってしまう。スピードのロスをどうするか。
- ・ 流れを作れば連携はできる。ケアマネジャーに情報が入ってくる。
- ・ 情報が聞けるようになると、協力できたなと感じる。
- ・ 顔の見える関係の先に、ICTがあるのではないかな。
- ・ お互いが、気兼ねがあつて遠慮で言えない・聞けない状況がある。もう一歩つっこんで聞くことが大切。
- ・ 事業所ごとにバラバラに連絡ノートがある。1冊になれば、家族も1回書けばよいし、事業所もつながる。

実践報告の感想

- ☆ スピーディな対応がされており、利用者の様子・自分の思いを持てるようになる等、連携の大切さを学びました。
- ☆ 医療ニーズの高い利用者の在宅生活を支える上で、看多機が担う役割の大きさ、またその機能の柔軟性などを改めて感じることができました。
- ☆ 一人の利用者さんに対して、これだけ他職種と連携をしてうまくいけば理想的だと思いました。
- ☆ 連携していくためには、他の事業所とも関わりをもつことの重要性を改めて感じるようになりました。
- ☆ 事例を通し介護職と医療が上手に連携していることが伝わってきました。



平成30年度 第3回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

●日 時：平成30年11月10日（土）14：30～16：15

●場 所：三重北医療センターいなべ総合病院 2階 会議室

●参加者：75名

※第3回の研究会は、いなべ医師会と合同で開催しました。

司会：いなべ医師会 萩原和光医師

佐藤委員（いなべ総合病院看護師長）

2. 講演『甲状腺の病気と検査』

講師 医療法人 甲仁会

名古屋甲状腺診療所 院長 椿 秀三千 先生

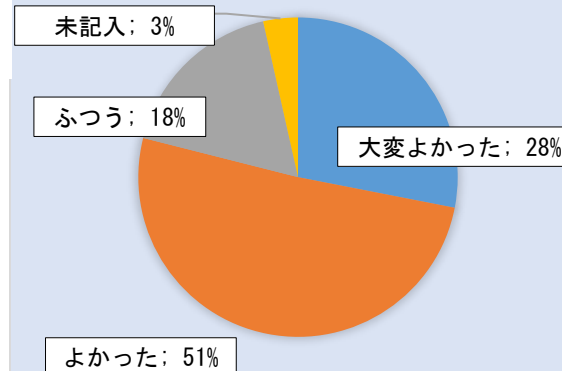
甲状腺疾患はまれで珍しい病気ではなく、身近な疾患です。しかしながら、早期発見が難しい病気のひとつです。症状だけでは判断できないので、早期発見には検査が有効です！

～講演内容を紹介します～

- ・ ホルモンについて
- ・ 甲状腺、甲状腺ホルモンの役割について
- ・ 甲状腺機能亢進症と甲状腺機能低下症について
- ・ バセドウ病、橋本病、無痛性甲状腺炎について
- ・ 甲状腺の血液検査・他の検査方法について



講演内容【アンケート結果】



～講演内容の感想の一部を紹介します～

- ・ 甲状腺疾患の基本的な内容を学ぶことができた。
- ・ 医学的な内容で難しい内容でしたが、今後の学びに役に立たいと思います。
- ・ わかり易く講演していただき良かった。症状が出たときは検査を！
- ・ 甲状腺疾患の知識が深まった。
- ・ バセドウ病・橋本病は知っていても、はっきり説明ができないことがあったが、わかりやすい説明で、また検査のことを説明していただき参考になりました。
- ・ 高齢者と甲状腺ホルモンの関連について様子を知ることができた。
- ・ 甲状腺疾患の方も多いので参考になりました。

平成30年度 第4回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

テーマ 『実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part6』

●日 時：平成31年1月18日（金）

19:30～21:00

●場 所：員弁コミュニティプラザ

●参加者：118名

司会：山本委員（ブーケ）

佐藤委員（ほくせい調剤薬局）



“Part6”の今年度最後の研究会は“特別養護老人ホーム”における他職種支援の事例を通して、各専門職のアセスメントから取り組み実践・振り返りのサイクルについて考えました。

これまでの、研究会を通して、実践事例も意見交換会も、ますますパワーアップしています!!
皆さまのアンケート結果からも、『連携』が進んできたと実感されている方も増えてきています!!



実践事例報告の感想

- * **特養さんの実情**を知る機会はありません、良い機会となりました。
- * 本人の希望を最大限事業所全体でかなえようと、それぞれの**職種の強みを発揮**していたことが良かった。
- * **特養での対応や連携の方法**がわかりやすかったです。
- * 個人に対して各職種が適切なアセスを行っていても、**関わる者たちが情報共有していなければ、連携はうまくいかない**ということが再確認でき良かった。
- * 施設でも外出支援されている。嬉しいです。**施設も悪くない**。

1. 実践事例

『自宅以外の在宅支援“特別養護老人ホーム”における多職種支援～アセスメントから考察までのサイクルを目指した取組実践～』

報告者 特別養護老人ホーム アイリス

総合サービス管理室副室長

（介護福祉士・介護支援専門員）川瀬 真理さん

介護支援専門員（介護福祉士） 岩坂 純子さん

看護主任（認知症看護認定看護師）島村 真美さん

管理栄養士

辻 紫さん



2. 意見交換会

『「連携って何?」「協働って何?」何をイメージしますか?』

「連携」について考え方や思い、困っていること等

意見交換会の感想

- * 今まで「**連携・協働**」について**具体的に考えたこと**がなく、良い機会になった。
- * 「**連携**」「**協働**」の**定義**について**考え方を共有**できたことは**有意義**であった。
- * **連携と協働がよくわかった意見交換**となりました。話し合うことは本当に良いことだと思います。
- * それぞれの専門家が、何を大切に、どのように考えられているのか、**生の意見が聞けるととても貴重な時間**になっています。
- * 他職種の**活動や思いを聞くだけでも勉強**になった。
- * 他職種との意見交換は**とても良い**と思います。**強化してほしいコーナー**です。